



## 【家庭の神の祭司長】

本日聖書箇所：創世記48章1-9節/

暗唱聖句：申命記5章9-10節

説教者：鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！一週間の間もお変わりなくみんな元気でしたか。一応本日まで緊急事態宣言が終わることになります。とりあえず、今日まで自粛するために、よく我慢し、お疲れさまでした。今週から、以前のように、教会で夜7時半から水曜夜祈り会（2階子ども祈り会・1階大人祈り会）、来る6月27日主日から、1部8時半と2部10時から教会での分散礼拝、11時半からアワナも、牧場もすべて再開いたしますので、楽しみにして下さい。ともに集まりましょう。

本日は子供祝福礼拝と等しく、大切な時間である父の日感謝礼拝の時間です。この教会に素晴らしい父たちを送ってくださって、ともに信仰の生活をし、ともに奉仕するように導いてくださった神様に感謝します。特に父であるみなさん上に今日も主イエスキリストからの慰めと恵みの中で元気で日々日々守られますよう御名によって祝福します。アーメン！

父の日（6月第3日曜日）の始まり

1909年にアメリカ・ワシントン州スポケーンのソノラ・スマート・ドッド (Sonora Smart Dodd) という娘さんは、男手1つで自分を育ててくれた父を讃えて、教会の牧師にお願いして父の誕生月である6月に礼拝をしてもらったことがきっかけとされています。彼女が幼い頃南北戦争が勃発。父ウィリアムが召集され、彼女を含む子供6人は母親が育てることになるが、母親は過労が元でウィリアムの復員後まもなく召されました。以来男手1つで育てられたが、父ウィリアムは子供達が皆成人になった後、召され、最初の父の日の祝典は、その翌年の1910年6月19日にスポケーンで行われるようになりました。当時すでに母の日が始まっていたため、彼女は父の日もあるべきだと思い、「母の日のように父に感謝する日を」と牧師協会へ嘆願したことにより、1916年、アメリカ合衆国第28代大統領ウッドロー・ウィルソンは、スポケーンを訪れて父の日の演説を行い、これにより父の日が広がるようになりました。1966年、アメリカ合衆国第36代大統領リンドン・ジョンソンは、父の日を称賛する大統領告示を発し、6月の第3日曜日を父の日に定められ、1972年になり、アメリカでは正式に国の記念日に制定されました。母の日の花がカーネーションなのに対し、父の日の花はバラでした。ソノラ・スマート・ドッドが、父の日に父親の墓前に白いバラを供えたからとされています。

あるインターネットでの統計によると“父の日”祝わないが約6割「実際に父の日を祝う？」という別調査でも58.3%が【NO】と答えており、理想と現実の差が浮き彫りとなっているような気がします。みなさんの家庭ではいかがでしょうか。今日だけでも、家族でお父さんに是非感謝の気持ち、心を伝え、あらわす“父の日”となりますように！

< 1. 大切なお父さんの存在と影響力 >**① 家族の中欠かせない大切な存在お父さん！**

以前も紹介した事がありますが、お父さんの存在に対してこのような話があります。

<タイトル：“お父さん”>

4歳の時、お父さんは何でもできると思った。

7歳の時、お父さんは何でも知っている天才だと思った。

8歳の時、お父さんと先生、どちらがもっとえらいか考えた。

12歳の時、お父さんは実に知らないことが多いんだなと思い始めた。

15歳の時、お父さんの考え方が古い人だと距離を置き始めた。

25歳の時、お父さんを理解はするが、お父さんの世代はもう過ぎ去ったと思った。

30歳の時、子どもができたなら、少しお父さんの気持ちが分かるようになった。

40歳の時、何かを決める前にお父さんの意見をも聞いて見たい。

50歳の時、お父さんが恋しい！会いたい！

60歳の時、お父さんは自分よりもはるかに立派な人だった。素晴らしい存在だった。

お父さんは死んだ後にも、いつまでも久しくお言葉が思い出される人だ。いやお父さんは生きている時より、死んだ後になってからこそ、さらに恋しくなり大きな存在だったことが分かるようになる。

お父さんは決して無関心の人ではない。お父さんが無関心の人のように見えるのは、体面と、プライドと子供たちへのすまない気持ちがまざってすぐにおもてに出せないからだ。

お父さんの微笑みは母のそれより2倍も濃い。お父さんは家では大人のふりをするが、自分の友に会うと少年になる。

お父さんは母の前ですら祈りもしないが、一人になると運転の時でも、大声で祈り、絶対者に叫びながら家族のため助けを求める存在だ。

お父さんが一番の幸せを感じる時は、子供から尊敬していると言われた時であり、愛していると言われる時である。

お父さんが一番悲しい時は、家族の中でお父さんを恥ずかしがる時やいなかったほうが良かったと言われた時である。

その時お父さんは心を痛みながら泣く。お父さん！いつもかわらない。いつもその場において支えてくれる大きな岩のような名前。その素晴らしい名はお父さん！！

聖書には600回以上父という言葉が記されていますが、その中で神の知恵書と呼ばれる箴言では続けて父親の事の大

切さを強調しつつ教えて下さっている内容でもあります。箴言4章1節では「子どもらよ。父の訓戒に聞き従え。耳を傾け、悟りを得よ。」、箴言6章20節「わが子よ、あなたの父の命令を守れ。あなたの母の教を捨ててはならない。」とも書かれています。箴言10章1節「ソロモンの箴言。知恵のある子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみである。」

箴言13章1節「知恵のある子は父の訓戒に聞き、あざける者は叱責を聞かない。」

箴言23章2節「あなたを生んだ父の言うことを聞け。あなたの母が年老いてもさげすんではならない。」

箴言30章17節「自分の父をあざけり、母への従順をさげすむ目は、谷の烏（からす）にめぐり取られ、鷲の子に食われる。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさんはこの内容を聞きながら、お父さんについてどう思われますか。子供たちは大きくなればなるほどお父さんの話を聞こうとせず、無視する傾向があります。いつの間にか自分がお父さんよりよく知っていると、よくできると思いこんでいるからではないでしょうか。お父さんのアドバイスはもう要らないと、もう古い話、つまらない話だろうと断定しているかも知れません。しかし、お父さんを尊敬し、尊重し、お父さんの話を大切に聞き取り、従おうとすることが子供の人生は必ず祝福される智恵ある道であることを教えて下さっています。

愛する信仰の家族のみなさん!すばらしい家庭、幸福な家庭は与えられるのではなく、作られていくものであります。結婚すると自動的に家庭が幸せになるということではなく、家庭内での一人一人が特にお父さんが家庭の幸福と祝福のために努力すべきであります。なぜでしょうか。家族の中でも家庭に一番、影響を与えたとしたら当然それは父だからです。母の愛もすばらしいものですが、子供たちにとって父の愛は母の愛とはまた別だと思えます。

こんにち社会と家庭はさまざまな問題にかかわっています。その中で多くはいつの間にかに家庭の中で仕事やさまざまなことで忙しくお父さんが家庭で不在になってしまったこととともに、父の役割と機能を知らない父とその父を通して子供の役割と機能を学ばされなかった子供たち!こういった悪循環によって数多くの事件や問題が家庭の中で起こされているのではないかとつくづく思います。心理学者であるヘンリービラー博士はこう指摘しました。

“今日、父たちを家族に戻せなければならない。そして、父たちに一番大切なのは父としての精神と自信をもう一度、取り戻す事が家庭の中でもっとも大切である。”

良くても、悪くても父親の影響力は子々孫々にまで続くものです。お父さんのあの真似をしたかった点も、傷つけられ決して自分はお父さんのあの姿はいやで、やらないとした悪い癖さえもいつの間にかに子どもである自分に影響を及ぼしています。お父さんの存在は自分の人生に決して欠かせない大きな存在であることを否定することはできません。ですから、お父さんの存在はとても大切な存在です。

## **② 家庭の中で必要な父親に4つの姿(王、戦士、恩師、友達)**

### **1)お父さんには王のような姿が必要です。**

王は最高の統治者です。民を守り、保護します。民が苦しみに置かれている時に、希望の夢を提示し、これからどんな方向に行けばいいのか将来のビジョンを提示する人です。最高の王は自分の民をよく顧みる、善良な心を持っている王で、反面最悪の王は民がどうなっても関係なく、自分がやりたいしだい、自分が正しいと思い込んでいる通りする暴君(ぼうくん)みたいに振る舞いをするものです。暴君は却って自分の有益のためただ多くの人々を利用し、犠牲を払わせるように強制する王です。

### **2)お父さんは戦士のような姿が必要です。**

戦士は戦う人です。自分の愛する人のため戦います。自分が愛する人々、自分が守るべき大義(たいぎ)のため先頭に立って戦います!そのためいつも最高の戦力を準備するため自分を自制し、訓練します。ある時は自分を信頼してついて来る者たちのため自分を捨てる場合もあります。やさしいけど、強い戦士は進む時と退く(しりぞく)時をよく見極めることができる戦士です。代わりに最悪の戦士は卑怯者です。いつも大声で叫びますが、実際に戦いが起こると、前に出て行かず、避けるか、逃げようとするばかり考えます。強い人たちの前では弱く、弱く見える人々には強く振る舞いをするので、いつも弱い人々をさげすんで見る人です。

### **3)お父さんは恩師のような姿が必要です。**

恩師は教える人です。自分の知識や知恵あるいは経験を分け与える人です。模範や基準の役割を示す人です。よい先生とは自分の長所だけではなく、自分の短所も、成功だけではなく、失敗にまでも分かち合える人です。

真の恩師は自分の話した通りに、教えた通りに生きようと自ら努力し、実践する人です。

しかし、最悪の恩師は偽善者のような人です。いつも教えようとしますが、実際の生活上での行動が異なります。自分が生きて来た通りにではなく、自分が話した通りに行きなさいといつも命令ばかり言う人です。

### **4) お父さんは友のような姿も必要です。**

(実は日本で父親理想型は友達のような親子関係を望む声が一番高かった。)

友は自分といつも一緒に行ってくれる人です。悲しい時には共に悲しみ、嬉しい時には共に喜べます。苦しんでいる時

は共にその苦痛を分かち合える人です。しかし、最悪の友は裏切る人です。友が成功している時は共にしますが、力がなくなり、失敗した時には背を向けてしまいます。自分の満足や有益のためには捨てることのできる人です。一番苦しい時に知らん顔をする人です。お父さんはこの四つの姿のどちらだけに偏らず、バランスよくこの四つの姿を保ったなければなりません。

愛する信仰の家族のみなさん！実はお父さんこそ、家庭の中でだれより家族からの愛の言葉（認める言葉、立たせる言葉、勇気を起こさせる励ましの言葉、尊敬と信頼、感謝の言葉）が必要な存在です。このような話をぜひ惜しまず、お父さんたちに話して見てください。父の日にどんなものよりもお父さんたちにとって一番力となり、一番嬉しいプレゼントとなると信じます。

### ③ 間違った父親のプレッシャーからの回復

今日、男性たち、特に、お父さんたちはそうするために断ち切らなければならない偏見とか誤解があると思います。それが今日男性も含めて特に父親たちに変なプレッシャーが与えもっと肩を重くさせています。小さい時から知らないうちに男性たちであるならば、父親だったら、みんな身につけられたことでしたが、それに却って苦しめさせて、真の男性、特に父の割り当てられた役を果たせないようにさせる原因ともなっていると思います。

例えば、父親はいつも強い者だ！父親は泣いてはいけない！お父さんは必ず成功しなければならない。お父さんはお金をたくさんもうけないと無能な父だ。とか、“お父さんは自分の過ちを認めてはいけない。そうすると父の権威がなくなるから”とか“父親はすべて自分が決めなければいけない。妻や子供たちの話を聞いてあげたり、助けてもらうのは父親の男性らしさを放棄することなんだ。”とか、“男性は女性より上だ！”とか“愛情を表現するのは女性たちがするもの”などこういうふうに変曲された変なプライド、体面がかえって夫婦や家族の幸せを妨げる壁となり、今日の男性たち、お父さんたちを押し寄せられている大きなプレッシャーとなっているところはありませんか。

もしも、お父さんたちが間違った時には正直に家族に、神様にもその過ちを認める姿こそ、本当の勇氣ある男性らしさ、権威ある父の姿だと思えます。お父さんの真の権威と力は完璧から来るのではなく、裏を持ってない正直さ、真実さから来る事を忘れないようにしましょう。

変なプライド、プレッシャーをもうすて、助けが必要な時は大胆に“助けて、祈ってくれないか。”と言えるお父さん！最近心配していることは何ですか。家族に伝え共に祈れるようにさせて下さい。お父さんだけ一方的ではなく、家族がお互いに共に支えあう事をみなさんの家族は心から願っていることではないでしょうか。

## < 2. 父親としての一番の特権と役割：神の御名によって家族、子どもたちを祝福する事！ >

今日の本文1節によると、ヨセフはお父さん（ヤコブ）が危篤の状態だと聞いた途端に、ヨセフは自分のふたりの息子だったマナセとエフライムを連れて父親ヤコブのところへ行ったと書かれています。

なぜヨセフはすぐ子どもたちをつれて父ヤコブに尋ねたのでしょうか。当時世界で一番の最強国であったエジプトの総理の立場として、かなり忙しいヨセフだったのではありませんか。ヨセフが願えば、何でも自分の思い通り動かせる権力を持っていても、お父さんの危篤状態であることを聞いた時途端、すぐ子供たちまで連れてお父さんに訪ねました。

どうして、2人の子どもたちまでみんな連れていたのでしょうか。子どもたちにおじいさんの臨終（りんじゅう）を直接見せる為だったのでしょうか。もちろん、その意味もなかったとは思われません。

それとも、お父さんの遺産を他の兄弟たちよりも先に行って受け取る為だったのでしょうか。

ヨセフのこの行動には大事な理由がありました。

本文9節にはその理由が書かれています。「ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった息子たちです。」すると、父は「私のところに連れて来なさい。私は彼らを祝福しよう。」と言った。」

ヨセフは父親ヤコブを通して神の祝福を子どもたちが頂けようにさせるためでした！ヨセフは金銭的な遺産よりも、エジプトの総理の息子として受けれる世の名誉や恵沢（けいたく）よりも、生前お父さんを通して与えて下さる神の祝福を頂ける事が自分や子どもたちにとってどんなことよりも大切であると信じていたからでした！

父親を通して、自分の子どもたちにエジプトでの貴族の立場よりも、神を祝福の約束の民である事を確認させる事が全然増しである事を信じていたからこうしたのではないのでしょうか。だから、ヨセフは父親ヤコブが召される前に急いでお父さんのところに直接尋ね、自分の子どもたちに祝福を受けさせようとしたわけです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！どうしてヨセフはその神の祝福をお父さんに行って求めたのでしょうか。なぜなら、神は家庭を作り、父親を神の代理者として用いて、神の祝福を家族や子どもたちに流すための家庭の祭司的存在である事を知っていたからであります。実は神の祝福を持って子どもたちを祝福させることが出来るその特権こそ、神を信じる家のお父さんたちに与えられている神の特権であります。

### \* 子供たちを祝福する為の父親の先行条件がある！：まず神の祝福を父親が体験する

そのように神の祝福を家族や子どもたちに祈る父親として用いられるためには、お父さんたちに一つの条件があります。それは何でしょうか。

本文3-4節を読んで見ましょう。

「3ヤコブはヨセフに言った。「全能の神はカナンの地ルズで私に現れ、私を祝福して、4仰せられた。『見よ。わたしはあなたに多くの子を与える。あなたを増やし、あなたを多くの民の群れとし、この地をあなたの後の子孫に永遠の



所有地として与える。』」

この内容は父親ヤコブが以前人生の危機の時、全てを失ってしまったかのような時、これからの人生の先がまったく見えなかった時、信じていた神がそんな自分におられ、すばらしい祝福の約束を与えて下さった事、その為、自分がここまで守られ、祝福されて来た人生だったことを証しをし、その神の約束の祝福が何であったかを教えている内容であります。

この箇所を通して我々に教えて下さる内容は何でしょうか。

実際家族に神の祝福を持って子どもたちに与えるため父親になる為には、まずお父さんご自身が神の祝福を日常生活の中で実体験していかないといけないという意味でしょう。父親は子供たちを祝福する前に、まず、生きておられ全能なる神との関係と交わりを保ちながら、神の祝福を体験して行かなければなりません。

家族への祝福の祈りは家庭のお父さんたちに与えられている特権なのにも関わらず、実際そのようにお父さんたちが祈れない理由は、ご自身がそのような神の祝福を実際体験してないため、信仰と確信を持って祈れません。

ですから、神の恵みと祝福がわが家庭や子どもたちに流させるために、まずお父さんたちが日々神の恵みを、神の御助け、神の祝福を実際体験出来るように祈り求め、体験して行くことが前提となります。

お父さんは神の祝福が自分だけではなく、家族に、子どもたちに分ち合い、流せる特権と霊的な責任を持っている家庭の祭司的な存在である事を忘れないようにしましょう。今日本語でヨセフは自分の子どもたちに何よりも神の祝福を与え、残したかった父親としての心が見えませんか。このよの中どんな物より一家や広い土地、金銭的な財産や遺産などよりも子どもたちに自分が今までの人生の中で父親のとして、受けたように神の祝福をまた、自分の子どもたちにも是非受け継がせる事を一番大事に、優先にしていた姿を学んでおきたいと思えます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

ちゃんと主の日を覚え、何かあっても主日礼拝を守れば、必ず神の恵みを受ける事を子どもたちに教えてあげましょう。困ったり、大変な時に、神の御力に頼り祈ると、子どもたちもその親の姿を見て、神に頼り、神のタイミングの時に最善を成し、助けて下さる事を子どもたちも体験することが出来ると信じます。全てが神のもので、神様が与えて下さったものですから、その中聖書の祝福の約束通り信じて、少ないものの中でも十分の一の献金を神に捧げる事を見せつつ教えて行くと、きっと子どもたちも必ずその姿勢、その信仰を見習って神に捧げ、神の約束を実際に体験して行けると信じます。

お父さんであるみなさんは子どもたちに何を残し、何をあげたいと願い、思っていますか。

何よりも素晴らしい信仰の遺産を子どもたちに残し、自分の時代よりはるかに子ども達の時代に神の祝福を頂けるようにしておきませんか。

今日の本文8-9節をもう一度読んでみましょう。

「イスラエルはヨセフの子らに気づいて言った。「この者たちはだれか。」9ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった息子たちです。」すると、父は「私のところに連れて来なさい。私は彼らを祝福しよう。」と言った。」10節まで読んでみると、もうヤコブは視力も大分悪くなってしまい、自分の前にだれがいるのか見えない状態でした。なのでヤコブは、最初ヨセフだけ来たと思ってました。しかし、ヨセフが2人の子どもたちをも連れて来た事を聞いた時に、ヤコブは2人の孫を呼んで彼らを祝福します。目は見えませんが、心の中では今まで、ヤコブが父イサクから頂いた祝福の祈りを思い出しながら、今までヨセフを含めて子ども達のために祝福したように、2人の孫たちにも神の祝福を祈っています。

ここで私たちが学ぶべきことは何でしょうか。家庭の中父親の一番大切な役割と特権、それは、子どもたちを祝福する事をいつも身につけ、習慣になっていかなければならない事です。親は子どもが生まれた時から神の祝福を祈る者たちであります。お父さん、お母さんのみなさん、皆さんはよく子どもたちに神の祝福を祈ってあげているのですか。特にお父さんであるみなさんはつねに神から与えられているこの祝福する特権を子どもや家族にさらに大いに用いてくださるようお願い申し上げます。

父の愛をあらゆる最高の方法を神様の御名、イエスキリストの御名によって子供たち祝福することであることを旧約聖書ではひんぱんに記しています(創世記27:27, 48:9, 第二歴代誌30:27, 民数記6:24-26)。ですから子供たちに祝福の祈りをたっぷりやってあげてください。子供たちは父が自分たちを愛しているため自分を祝福してくれるのだと感じると一番の安定感をおぼえるでしょう。

愛するみなさん！特にお父さんたちのみなさん！完璧な父になる必要はありません。いやそうなれないでしょう。

“神様！私が父親です。いつも助けて下さい！あなたの知恵を与えて下さい！、わたしを通して家族に、子どもたちに約束された神の祝福をお与えください”と祈るお父さんの存在となりますように切にお祈り申し上げます！

今日の御言葉のようにお父さんたちを通して流れる神の豊かな恵みと祝福がみなさんの家庭と子どもたちに流され、満ち溢れますように、その祝福の通路として用いられますお父さんたちともなりますようにお祈りいたします。アーメン！